

平成 28 年度 学校評価報告書（目標設定・**実施結果**）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月11日実施)	総合評価（3月23日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	<p>①学力の向上と進路希望の実現に向けた教育課程を編成し、生徒の学習意欲や探求心を高める環境を提供する。</p> <p>②授業改善を進め、基礎学力の定着と主体的な学習の取組を支援する。</p>	<p>①(1) 新たな教育課程編成に向けた検討と授業時間確保の方法を模索する。</p> <p>(2) 平成 29 年度 3 学年の教育課程導入に際し、生徒の適切な選択を支援する。</p> <p>(3) 新たな「高等学校基礎学力テスト（仮称）」・「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の導入に向けた研究を進める。</p> <p>②(1) 教員相互の授業参観・研修会の実施と「生徒による授業評価」の有効活用を進める。</p> <p>(2) 「定期テスト前のフォローアップ週間」「夏期講習」を計画的に実施する。</p>	<p>①(1) 生徒の実情や進路希望に応えられる教育課程を編成することができたか。（「学校に関するアンケート」の結果における生徒の満足度 50%以上）</p> <p>(2) 選択科目の説明会を計画的かつ効果的に実施できたか。</p> <p>(3) 「高等学校基礎学力テスト（仮称）」・「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の情報収集と検討のための体制ができたか。</p> <p>②(1) 授業参観者数を増加させることができたか。</p> <p>(2) 「生徒による授業評価」の有効活用ができたか。（「生徒による授業評価」の結果における生徒の満足度 80%以上）</p>	<p>①(1) 生徒による「学校に関するアンケート」の「生徒の実情や進路に合ったカリキュラムが設定されている」の項目で、満足度 55%であった。</p> <p>(2) 今年度は平成 29 年度入学生からの新しい教育課程導入までの移行期にあたるため、新 3 年生に対して進路実現につながる科目選択を適切に指導した。</p> <p>(3) 現時点では「高等学校基礎学力テスト（仮称）」・「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の情報断片的であり、全貌がまだ見えていない。</p> <p>②(1) 「授業改善研究授業」期間を昨年の 3 週間から 1 か月に延長し参加しやすい状況にしたが、参加者は昨年並みであった。</p> <p>(2) 「生徒による授業評価」において、1 回目より 2 回目の結果がすべての項目で、満足度が伸びた。授業の内容を改善した結果、生徒自身の取り組みの改善につながったとみられる。</p>	<p>①(1) 生徒の実情や進路希望に沿った新たな教育課程編成に向けた検討を引き続き行い、授業時間確保を目指す。</p> <p>(2) 平成 29 年度入学生からの新しい教育課程への移行をスムーズに行えるように生徒への指導を慎重かつ丁寧に行う。</p> <p>(3) 新たな大学入学選抜制度についての情報収集に努め、課題を整理し、生徒・保護者への情報提供に努める。</p> <p>②(1) 「授業改善研究授業」については、生徒のためにより良い授業を積極的に考えるよう呼びかけ、多くの教員が参加するよう状況をつくる。</p> <p>(2) 「生徒による授業評価」の今年度の結果を踏まえ、さらに生徒の状況を把握しながらより満足度の高い授業を目指す。</p>	<p>①「学校に関するアンケート」の内容を検証し、満足度をより高めてもらいたい。</p> <p>②授業改善については高校での生徒の主体的な学習への取組を中学生にもっと発信してもらいたい。</p> <p>夏期講習などで学習面での支援をよくしてくれている。またフォローアップ週間や 3 年生の部活動引退後の指導など、先生方がよく面倒を見ている。</p>	<p>①外国語（英語）の時間数を増やし生徒の学力向上と進路実現に向けた新教育課程を開始する準備が整った。満足度・効果についてさらに検証していく。また、新たな大学入学選抜に対応できるよう、教育課程の研究と科目選択の工夫に努める。</p> <p>②授業改善については研究授業期間を延長し改善を図ったが参加数については昨年度並みであった。夏期講習・フォローアップ週間・補習等は計画通り実施することが出来、生徒・保護者の満足度も高かった。</p>	<p>①県立高校改革実施計画及び新学習指導要領等を踏まえ、検証と改善を継続する。科目選択について、引き続き生徒に丁寧に指導を行う。また、新たな大学入学選抜制度については、さらに情報収集に努める。</p> <p>②授業改善については適切な期間の設定と研究授業の方法について検討を進める。また、基礎学力の定着に向け、さらに授業時間確保に取り組んでいく。</p>
2	生徒指導 ・支援	<p>①生徒一人ひとりの豊かな心を育み、規範意識・自己教育力を育てる。</p> <p>②登下校の安全意識・交通安全意識の向上を図る。</p> <p>③個に応じた支援・相談体制を充実させる。</p>	<p>①(1) 学校行事の精選、部活動の校内整備と充実に努める。</p> <p>(2) 遅刻防止指導、清掃指導、挨拶奨励活動を進める。</p> <p>②(1) 不審者や事故の情報を提供する。</p> <p>(2) 「いじめ防止基本方針」及び「いじめ防止等対策マニュアル」に基づき未然防止に向けた取組を行う。</p> <p>③スクールカウンセラーや専門機関との連携、各種講演会の開催を通してきめ細かな教育支援を行う。</p>	<p>①(1) 学校行事と部活動における生徒の満足度が昨年度を上回れるか。</p> <p>(2) 遅刻数が減少し、校内美化が進み、挨拶ができるようになったか。</p> <p>②(1) 犯罪被害や交通事故の防止に効果を挙げられたか。（「学校に関するアンケート」の結果における生徒の満足度 50%以上）</p> <p>(2) いじめ防止に向けた方針及び取組内容が職員に周知され組織的にいじめに対応できたか。（「学校に関するアンケート」の結果における生徒の満足度 50%以</p>	<p>①(1) 学校行事と部活動における生徒の満足度は昨年度を上回ることができた。</p> <p>(2) 遅刻数では 1、2 年生は昨年より今年の方がやや増加、3 年生はやや減少した。校内美化については一足制の影響もあり清掃が行き届かない部分もあった。挨拶については、来客からほめられることがあった。</p> <p>②(1) 自転車マナーに対する地域の苦情件数の減少など、生徒の交通ルール遵守に対する意識の向上が見られた。一方で、もらい事故等重大な事案も発生した。</p> <p>(2) 日ごろの生徒情報の把握と共有から「いじめの芽の段階」での発見に努めることが未然防止につながっている。</p> <p>③スクールカウンセラーや関係諸機関と</p>	<p>①(1) 学校行事の意義と将来像を確立させる。また、部活動の校内整備を引き続き推進する。</p> <p>(2) 生徒が自ら遅刻を減らし、校内美化に取り組み、挨拶が出来るように引き続き指導する。</p> <p>②(1) 交通事故における危険予見性の育成と生活全般を通じた安全行動の指導が課題である。</p> <p>(2) いじめの把握は、アンケートだけでは十分ではなく、教師による普段の生徒観察がより重要である。教師の意識を高める取組が重要になる。</p> <p>③生徒のニーズに応えられるよう、スクールカウンセラーの勤務日数の増加を要望するととも</p>	<p>①部活動、学校行事を通して資質を高める指導が評価できる。モチベーションを高め、切り替えの指導により、学習との両立の工夫ができています。</p> <p>②安心・安全な学校生活が営めるように支援・指導の持続を期待する。</p> <p>③生徒のニーズにこたえるためにカウンセリングの質・量の充実に期</p>	<p>①学校行事を通して生徒の人間性を向上させることができた。生徒の規範意識とマナーの向上については一定の成果が見られた。貴重品管理の指導にも関わらず、盗難が数件発生した。</p> <p>②地域からの自転車マナーに対する苦情件数、痴漢等の被害件数が減少した。スクールサポーターとの連携に努めた。</p> <p>いじめ防止には、担任・学年・生活指導・教育相談の連携が機能した。</p> <p>③教育相談では、担任・</p>	<p>①部活動・行事に魅力を感じさせる将来像の整備に取り組む。</p> <p>貴重品のより効果的な管理の徹底を図る。</p> <p>②通学経路の安全や服装・身なりの指導を充実させるとともに「交通安全教室」の内容を吟味する。</p> <p>いじめについては未然防止の重要性について認識を共有する。</p>

		③各種機関・保護者と連携しながら生徒理解を深め、教育相談・支援体制の充実を図る。			上) ③十分な生徒相談・教育支援を行えたか。（「学校に関するアンケート」の結果における生徒の満足度 50%以上)	の連携を密に行い、生徒が抱える様々な課題に対応できる体制づくりに努めた。	に、専門的な機関等との連携を推進する。	待する。	学年・生活指導・スクールカウンセラーが緊密に連携し、課題解決に向けて取り組んだ。	③教育相談コーディネータを中心とした教育相談体制を整備する。
3	進路指導・支援	生徒一人ひとりが自己の生き方、あり方についてとらえることができるよう、計画的・継続的なキャリア教育を推進する。	①全教科で取り組むキャリア教育実践プログラムを実施し、検証していく。 ②職業観・勤労観を育てる。	①キャリア教育において身につけるべき諸能力を育成することを意識した教育活動の展開に努める。 ②各学年に応じた進路ガイダンスを実施する。	①教育活動の様々な場面で社会生活・職業生活に必要な技術・技能を育成できたか。（「学校に関するアンケート」の結果における生徒の満足度 50%以上) ②生徒が自己の生き方やあり方について考えるのに有効な機会を十分与えられたか。	①総合的な学習の時間や学校全体の教育活動を通して、社会生活・職業生活に必要な知識等を身につけるための取組みができた。（「学校に関するアンケート」の結果における生徒の満足度 60%以上) ②生徒が自己の生き方やあり方について考える各種ガイダンスや体験授業等の実施により、望ましい職業観・勤労観を育成し、自分の進路を具体的に考えるための意識づけができた。	①生徒一人ひとりが高い目標を持ち、それぞれの特性を生かした目標に向けて、きめ細かな指導を継続する。 ②自分の進路について、具体的かつ実践的に捉えることができるよう、各種ガイダンスや体験授業等の充実を図る。	①キャリア教育に消費生活教育の導入を。 ②説明会やガイダンス、模擬試験などの機会が増えたことで、生徒の進路に対する意識と学習意欲の向上が見られる。	①学校全体の教育活動や総合的な学習の時間において、校外での活動を経験することにより、自己の生き方、あり方について考え、職業観や勤労観を高めることができた。 ②学年に応じたガイダンスや体験授業等により、生徒一人ひとりが進路実現に向けて着実に取り組むことができた。	①必要に応じて部分的に改善しながら、きめ細かな指導・支援を継続する。 ②生徒一人ひとりの進路実現に向け、ガイダンス等の内容についてさらに充実を図る。
4	地域等との協働	①開かれた学校づくりを進め、家庭や地域と情報を交換する中で、相互理解と協力体制を確立しさらに進展させる。 ②HPや「お知らせメール」による、タイムリーな情報発信により地域からの理解を得るよう努める。	①学校行事全般を通して地域や保護者との連携を深め、開かれた学校づくりに努める。 ②学校の情報を確実に発信し、地域や保護者からの意見要望を参考に、より良い学校づくりを行う。	①学校へ行こう週間、保護者懇談会、学校行事、部活動等を通して、地域・保護者との連携を図る。 ②(1)配布物、HPの頻繁な更新、「西高お知らせメール」などで本校の活動の情報発信を行う。 (2)保護者、地域からのご意見要望を生かし本校の発展に努める。	①本校の「学校に関するアンケート」の保護者の満足度が昨年度を上回ったか。 ②(1)本校HPのアクセス数、「西高お知らせメール」の登録数が昨年度より上回ったか。 (2)保護者・地域からのご意見により改善がなされたか。	①「学校に関するアンケート」の保護者の満足度は昨年度を上回ることができた。 ②(1)中学生への広報活動を熱心に行った結果昨年度よりHPのアクセス数は大きく上回った。「西高お知らせメール」の登録数は、登録先アドレスを一本化しまた頻繁にメール発信を行った結果昨年度より上回った。 (2)保護者・地域からのご意見・要望はすぐに検討し結果等はHP等でお知らせするよう努めた。また、保護者から校内環境美化についてのご意見があった。	①さらに満足度を上げるよう努力したいがアンケートの結果のまとめに時間がかかる。 ②(1)HPのアクセス数は確実に増えているが、部活動の実績の更新等、さらに改善を図る。「西高お知らせメール」の登録数を増加させる。 (2)地域・保護者との情報交換の場をさらに確保するよう努める。保護者からのご意見等については、問題意識を職員・生徒が共有し改善に努める。	①地域行事への生徒の参加について評価できる。広く発信を。PTAと教員の連携がよく出来ている。保護者も手伝おうという気持ち強い。 ②学校からの配付物が保護者に届かないことがよくある。もっと周知してほしい。	①各学校行事で地域や保護者が積極的に触れ合う場面を設定できた。また地域の行事等への生徒の参加により、開かれた学校づくりを進めた。学校行事を含めPTAの臨機応変な支援を得られた。 ②「西高お知らせメール」により配布物の確認を行った。	①地域の意見や要望を学校づくりに生かす。 PTA活動では保護者・教員の協力体制をさらにすすめる。 ②HPでの情報発信およびタイムリーな更新に努める。「西高お知らせメール」の登録を増やす。
5	学校管理 学校運営	①事故防止の徹底を図るとともに、教職員が前向きに課題に取り組む学校文化を形成する。 ②生徒の防災意識を高め、安全対策を強化する。 ③耐震化工事を計画的に進めるとともに、事故防止に努める。	①各種校内研修(OJT)、事故防止会議を充実させる。 ②生徒の防災意識を高める。 ③耐震化工事を関係機関と十分な連絡調整を行い、計画的かつ安全に推進する。	①各種校内研修及び事故防止会議の充実を図り、教職員が前向きに課題に取り組める学校を形成する。 ②防災訓練を実施し、生徒及び職員の動きを確認するとともに、防災意識を高める。 ③東棟の工事の推進、及び西棟から仮設校舎・新東棟への移転、仮設校舎から新東棟への移転をプロジェクトチームをつくり計画的に推進する。	①各種校内研修 5 回及び事故防止会議 10 回以上を実施する。 ②計画通りに防災訓練を実施することができ、生徒及び職員の防災意識は高まったか。 ③関係機関と連携しながら新東棟の工事が推進されたか、校内移転が計画的及び安全に実施できたか。	①各種校内研修を 7 回、及び事故防止会議 12 回実施し、職員の意識や資質の向上を図ることができた。 ②年 2 回の防災訓練を計画通り実施し、生徒・職員の防災意識と連携を深めることができた。 ③県当局、工事業者等と連携しながら新東棟の工事を計画的、安全に進めることができた。	①今後も職員研修を積極的に実施し、職員の資質向上に努める。 ②来年度は校舎も新しくなるため、非常時の対応方法について徹底を図る。 ③来年度は西棟の耐震化工事が始まる。今後も安全に工事の推進を図る。	①今後も事故防止に向け職員研修の継続を期待する。 ②防災訓練の確実な実施と生徒の防災意識の向上を期待する。 ③工事において事故が無いように安全に努めてほしい。	①校内研修・事故防止の成果が入学者選抜に活かされた。 ② 2 回の防災訓練で職員および生徒の防災意識を高めることができた。地域との連携が課題である。 ③生徒の事故・怪我等無きよう工事での連絡調整に努めた。	①さらに職員研修による事故防止に努める。 ②新校舎の避難経路の確認、消防署との連携による防災訓練を実施する。 ③今後の西棟の耐震化工事、グラウンド工事に向け、生徒の安全確保に努める。